

港區採訪

歌舞伎「元禄忠臣蔵」特集②



名所絵に 描かれた港区

12月17日、国立劇場で上演され

る「元禄忠臣蔵」第三部にちなみ、4回にわたって、忠臣蔵や江戸の世界を「浮世絵」を通してご案内しています。先月号では、「浮世絵と港区——入門編——」と題

う。

名所絵を買い求めた江戸時代の人々も、私たちと同じように、土産話や自慢話に花を咲かせ、思い出やあこがれの地に思いを馳せていたのではないでしょうか。

浮世絵の楽しみ方

港区は江戸時代も流行の最先端として使われてきたことをご紹介しました。第2回は風光明媚な場所を描いた「名所絵」についてです。

港区と言えば、どこを思い浮かべますか？ 汐留・台場・六本木・麻布・赤坂・青山・高輪・白金：いずれも流行の最先端を連想させる人気スポット、多くの人が仕事や観光で訪れ、またそこで生活も営まれている、大変活気のある街です。

江戸時代の名所絵は、情報誌のような役割も果たしていました。港区には、高輪、愛宕山、増上寺など、江戸庶民に人気のある場所が多数あり、多くの名所絵が描かれています。

現代に生きる私たちにとつても「知っている」物事を確認するのは、思いのほか楽しい作業です。本やテレビで見知った場所に行って、自分の目で確かめ写真を撮る。愛着のある場所を絵や写真で人に紹介する。あこがれの町の絵や写真を飾つて、そこで働きたい、暮らしたいと願うこともあるでしょう。

港区は日々変容しており、残念ながら、浮世絵が描かれた時代の風景をそのままとどめている場所はほとんどなく、画中でしか見ることができない光景があります。多くは、すでに失われた風景や風俗ですが、当時を知らない私たちが見ても、惹きつけられる光景があります。思わず笑みがもれる滑稽な人物表現、はつとさせられる色使い、失われていない新鮮味が、



「東京名所四十八景(四十二)／飯倉四ツ
(昇斎一景)明治4年(1871)



A 現在の飯倉交差点あたり。絵の左下に見えるのは江戸湾です。町家の屋根を越えて七夕飾りがはためいています。



港区立港郷土資料館
(文化財保護調査員) 小澤 紘理子

浮世絵の魅力なのです。



東京名所十二ヶ月／高輪 八月十五夜
(月夜) 明治五年(1872)



A photograph of a city street scene in Japan. The foreground shows a paved road with white dashed lines. On the left, a teal-colored bus or van is parked near a curb. In the middle ground, there's a large, dark green tree. Behind the tree, several modern buildings with glass windows are visible. A few people are standing near the tree. The sky is clear and blue.



東都名所／芝増上寺(歌川 広重(初代))天保1~13年(1830-42)



④ 上野の寛永寺と並び徳川家の菩提寺として、20万坪の規模を誇った芝増上寺。かつての敷地のほとんどは芝公園になりました。



③青山百人町の名は、鉄砲百人組の与力・同心が住んでいたことに由来します。治の中頃まで、旧暦の七月に盆灯籠を高々と掲げる「星灯籠」が行われていました。